資料　２

教育とウェルビーイングに関する資料

１　国際機関（ＯＥＣＤ（経済協力開発機構））における考え方
２　政府の教育振興基本計画における方向性
３　ウェルビーイング実現に向けた教室と学校の変革のイメージ（政府資料）
４　ウェルビーイングに関連する主観的指標と本県の学力の状況

令和５年11月14日　山形県教育局

１　国際機関（ＯＥＣＤ（経済協力開発機構））における考え方

OECDラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030

OECDラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030は、OECD Future of Education and Skills 2030プロジェクト※の成果であり、教育の未来に向けての望ましい未来像を描いた、進化し続ける学習の枠組みです。教育の幅広い目標を支えるとともに、個人のウェルビーイングと集団のウェルビーイングに向けた方向性を示しています。

※2011年にOECDと日本で開始した「OECD東北スクール」事業を多国間の枠組みに発展させ、2030年以降の未来を形作るため生徒に求められるコンピテンシーを明確化するとともに、このコンピテンシーを育む教師の資質や教育環境等を検討することを目的としたOECDの事業。

その構成要素には、学びの中核的な基盤、知識、スキル、態度と価値、より良い未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシーや、見通し(Anticipation)・行動(Action)・振り返り(Reflection)のAARサイクルが含まれます。また、ラーニング・コンパスは、生徒が周囲の人々、事象、状況をより良いものにすることを学ぶ上で、責任ある有意義な行動を取るための方向性を決めるために生徒が使うことができるツールであることから、生徒エージェンシーは、ラーニングコンパスの中心的な概念です。

学びの中核的基盤

カリキュラム全体を通して学習するために必要となる基礎的な条件や主要な知識、スキル、態度及び価値観を指します。

より良い未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシー

新たな価値を創造する力、責任ある行動をとる力、対立やジレンマに対処する力は未来を形づくり、そこで活躍するための必要な能力です。

見通し・行動・振り返りサイクル

学習者が継続的に自らの思考を改善し、集団のウェルビーイングに向かって意図的に、また責任を持って行動するための反復的な学習プロセスです。

生徒エージェンシー

生徒が教師の決まりきった指導や指示をそのまま受け入れるのではなく、未知なる環境の中で自立で歩みを進め、意味のある、また責任感を伴う方法で進むべき方法を見出す必要性が強調されています。

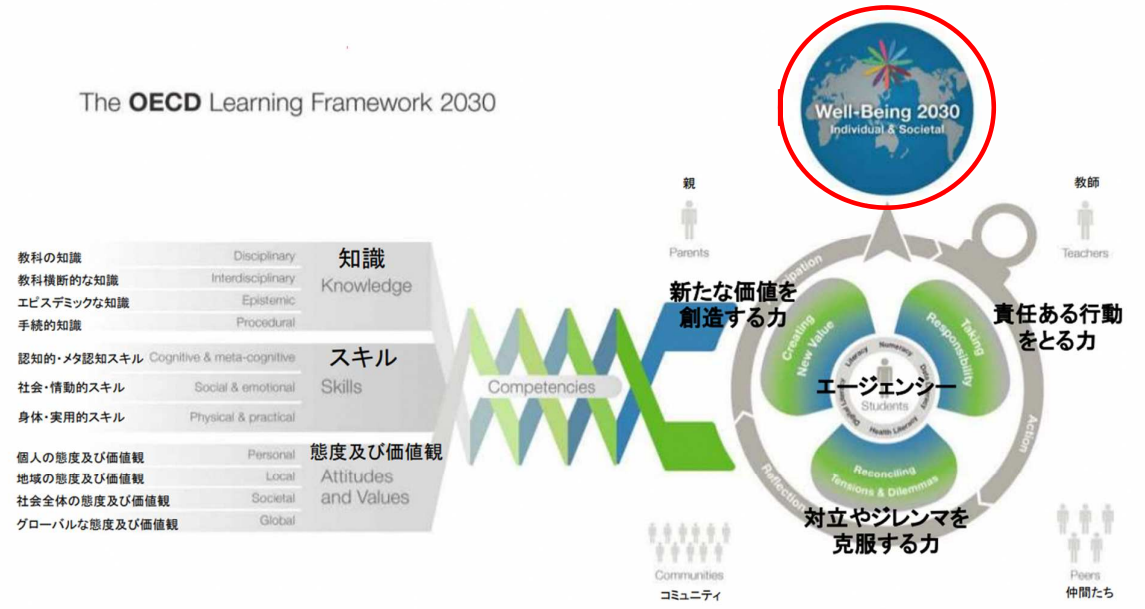
OECD「Conceptual learning framework LEARNING COMPASS2030」(2019年5月)をもとに作成

OECD Learning Framework 2030

文部科学省

OECD学習枠組み2030

Figure 1. The OECD Learning Framework 2030: Work-in-progress



出典:「The future of education and skills education 2030」(oecd-education-2030-position-paper.pdf (observatorioeducacion.org)

※1 変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力
※2 日本語訳は白井俊著『OECD Education 2030プロジェクトが描く教育の未来』(ミネルヴァ書房、2020年)を参照

２　政府の教育振興基本計画における方向性

ウェルビーイングの向上について（次期教育振興基本計画における方向性）

ウェルビーイングとは

○　身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

○　多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

なぜウェルビーイングが求められるのか

○　経済先進諸国において、ＧＤＰに代表される経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える考え方が重視されてきている。

○　ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）の「Learning Compass2030（学びの羅針盤2030）」では、個人と社会のウェルビーイングは「私たちが望む未来（Future We Want）」であり、社会のウェルビーイングが共通の「目的地」とされている。

日本発・日本社会に根差したウェルビーイングの向上

日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められる。

個人が獲得・達成する能力や状態に基づくウェルビーイング（獲得的要素）

・自己肯定感
・自己実現　など

両者を調和ある形で一体的に向上させていくことが重要

人とのつながり・関係性に基づくウェルビーイング（協調的要素）

・利他性
・協働性
・社会貢献意識　など

⇒日本の特徴・良さを生かし、「調和と協調（Balance and Harmony）」に基づくウェルビーイングを日本発で国際発信

【例：Ｇ７教育大臣会合「富山・金沢宣言」（2023年）】

We acknowledge the approach to well-being based on balance and harmony（略）We also recognize the importance of evidence-informed approaches when taking into account the well-being of children.

教育とウェルビーイング

・不登校やいじめ、貧困など、コロナ禍や社会構造の変化を背景として子供たちの抱える困難が多様化・複雑化する中で、一人一人のウェルビーイングの確保が必要
・子供・若者に、つながりや達成などからもたらされる自己肯定感を基盤として、主体性や創造力を育み、持続可能な社会の創り手の育成を図る必要
・地域における学びを通じて人々のつながりやかかわりを作り出し、共感的・協調的な関係性に基づく地域コミュニティの基盤を形成

（教育に関連するウェルビーイングの要素）

自己肯定感
心身の健康
幸福感（現在と将来、自分と周りの他者）
協働性
社会貢献意識
学校や地域でのつながり
自己実現（達成感、キャリア意識等）
安全安心な環境
多様性への理解
利他性
サポートを受けられる環境

教育活動全体を通じたウェルビーイングの向上

（各要素を育む教育活動の例）

個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実
－子供たちの多様な状況に応じた学習者主体の学び、多様な他者と協働した学び
－きめ細やかな指導を通じた確かな学力の育成

多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂による共生社会の実現に向けた学び・生徒指導
－特別支援教育、いじめ・不登校対応　等

地域や家庭で共に学び合う環境整備
－コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
－社会教育を通じた地域コミュニティ形成

キャリア教育・職業教育、課題解決型学習
－社会的・職業的自立に向けたキャリア発達
－地域や社会の課題解決型学習

豊かな心・健やかな体の育成、安全・安心
－道徳教育、体験活動、学校保健の推進
－学校施設の整備、学校安全の推進

グローバル社会における国際交流活動
－海外留学推進、外国人留学生受入れ
－地域社会の国際化、多文化共生

主観的認識のエビデンス把握

（関連する主観的指標）

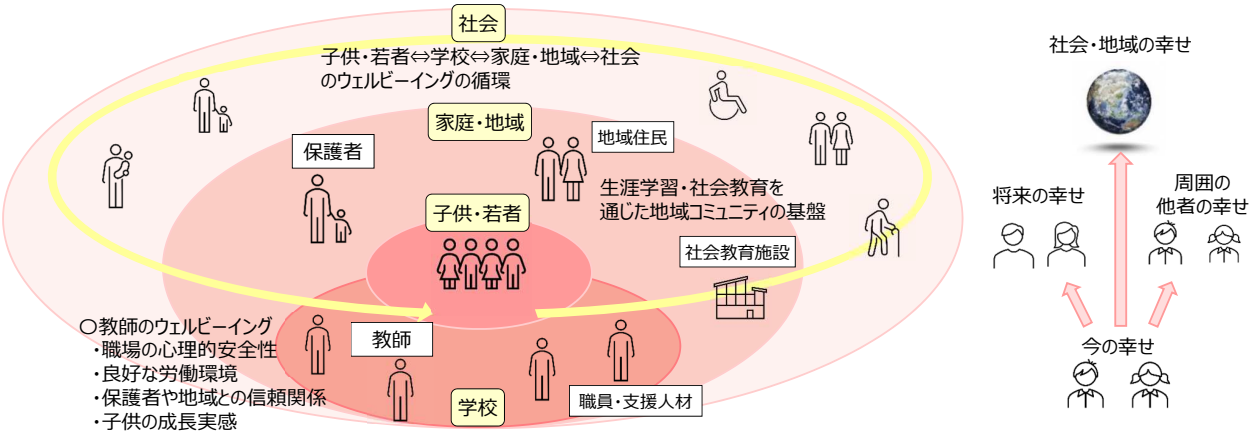
○自分にはよいところがあると思う
○将来の夢や目標を持っている
○授業の内容がよく分かる
○勉強は好きと思う

○普段の生活の中で、幸せな気持ちになる
○友人関係に満足している
○自分と違う意見について考えるのは楽しい
○人が困っているときは進んで助けている

○学級をよくするために互いの意見の良さを生かして解決方法を決める
○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う
○先生は自分のいいところを認めてくれる
○困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる

教師のウェルビーイング、学校・地域・社会のウェルビーイング

子供たちのウェルビーイングを高めるためには教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングが重要。また、子供たち一人一人のウェルビーイングが、家庭や地域、社会に広がっていき、その広がりが多様な個人を支え、将来にわたって世代を超えて循環していくという姿の実現が求められる。



その他の留意事項

Q. 協調的幸福を強調すると、横並びの過度な同調主義につながるのではないか。また、自己肯定感の向上が軽視されないか。

A. 協調的幸福については、「同調圧力」につながるような組織への帰属を前提とした閉じた協調ではなく、他者とのつながりやかかわりの中で共創する基盤としての協調であるという考え方に基づくものです。また、本計画において、自己肯定感の向上は引き続き重視しており、ウェルビーイングの獲得的要素と協調的要素を調和的・一体的に育むことが大切です。

Q. ウェルビーイングと学力はどのような関係に立つのか。

A. ウェルビーイングと学力は対立的に捉えるのではなく、個人のウェルビーイングを支える要素として学力や学習環境、家庭環境、地域とのつながりなどがあり、それらの環境整備のための施策を講じていくという視点が重要です。また、社会情動的スキルやいわゆる非認知能力を育成する視点も重要です。

（参考）OECDによる子供のウェルビーイングの構成要素

○子供が生活する家庭のウェルビーイングの条件（物質的側面、家庭環境）

・所得と資産　・仕事と報酬　・住居　・環境の質

○子供に特有のウェルビーイングの条件

・健康状態（乳児死亡率、青少年の自殺率など）　・教育と技能（PISA調査の得点など）　・市民参加（投票の意思など）

・社会と家庭の環境（親とよく話す生徒、学校が好きな生徒など）　・生活の安全（いじめなど）　・主観的幸福（生活満足度）

（出典）OECD「How's Life Measuring Well-being」

OECD Child Well-being Dashboardにおける日本の子供たちの状況

指標分野	指標	日本の結果
物質的な状況	家庭にインターネット環境がない子どもの割合	中
身体的な健康状況	乳幼児の死亡率	高
認知的・教育状況	10歳程度の子どもの数学・科学のトップ学力層の割合	高
	15歳程度の子どもの読解力・数学・科学のトップ学力層の割合	高
	高等教育を修了することを希望する子どもの割合	中
	子ども・若者のうちニートの割合	高
社会・情緒的な発達の状況	①自己有用感がある子どもの割合 「困難に直面したとき、たいてい解決策を見つけることができる」	低
	②成長意欲がある子どもの割合 「自分の知能は、自分ではほとんど変えることができないものである」	高
	③人生に意義や目的を感じている子どもの割合 「自分の人生には明確な意義や目的がある」	低
	④全体として人生に満足していると感じている子どもの割合 「全体として、あなたはあなたの最近の生活全般に、どのくらい満足していますか」	低

※①③は「その通りだ」「全くその通りだ」と回答した割合。②は「その通りでない」「全くその通りでない」と回答した割合。④は「0（全く満足していない）～10（十分に満足している）」の回答結果。

（出典）OECD「Child Well-being Dashboard」、PISA2018生徒質問調査

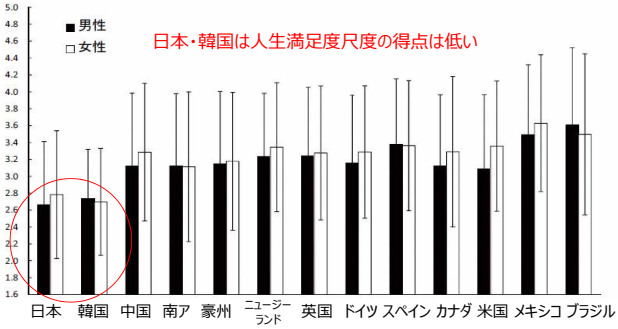
⇒ 国際的な比較調査では我が国の子供たちのウェルビーイングは低いとの傾向が報告されることがある

※自尊心や自己効力感が高いことが人生の幸福をもたらすという獲得的幸福感に基づく尺度

（参考）ウェルビーイングに関する国際比較調査

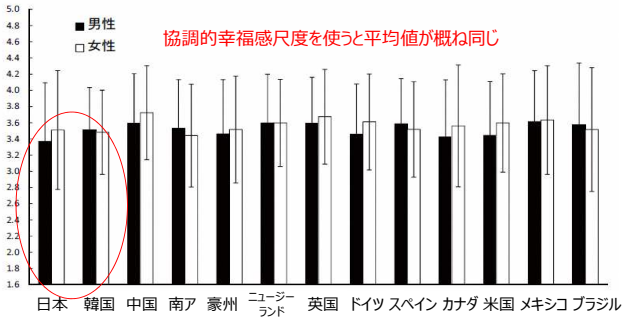
人生の満足感尺度

【項目例】
・私の人生は、とてもすばらしい状態だ。
・大体において、私の人生は理想に近いものである。　⇒獲得的幸福
・これまで私は望んだものは手に入れてきた。



協調的幸福感尺度

【項目例】
・自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う
・大切な人を幸せにしていると思う　⇒協調的幸福
・平凡だが安定した日々を過ごしている

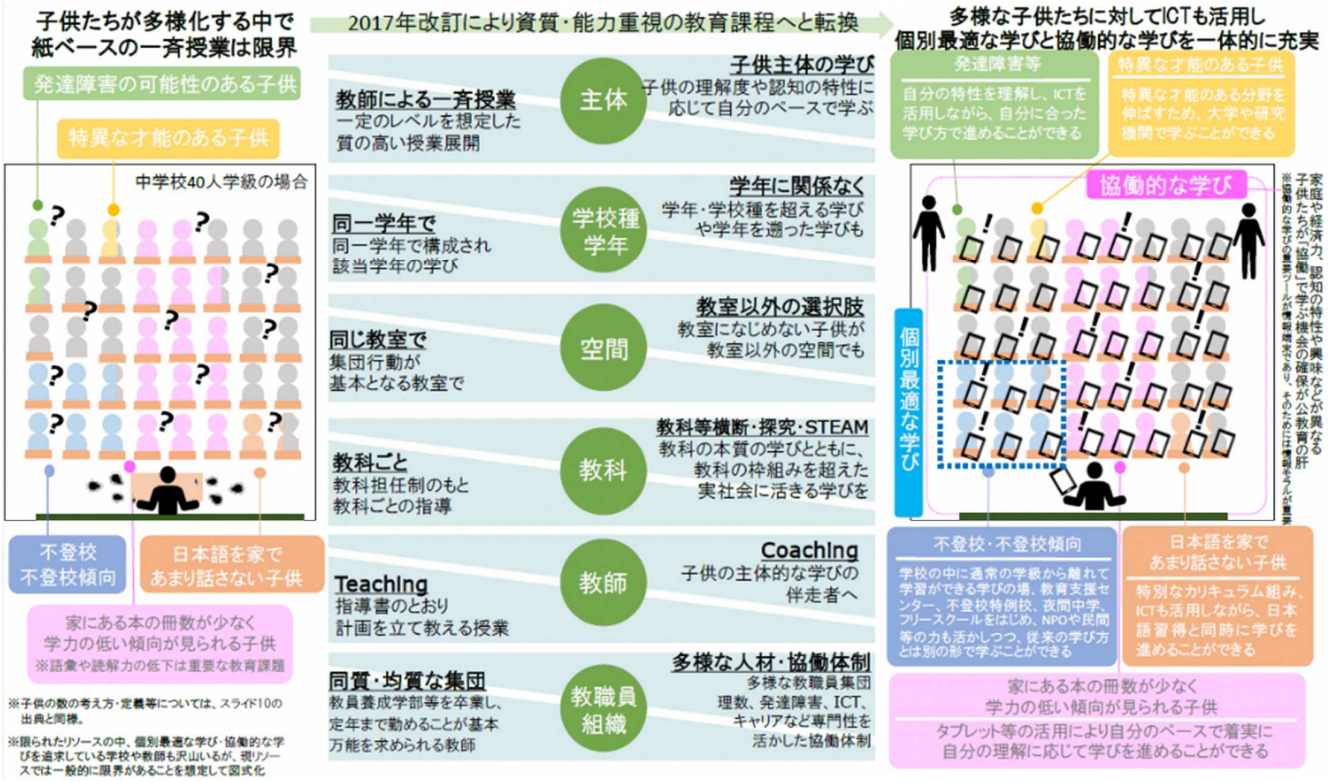


（出典）人生の満足感尺度： Diener et al.(1985)、協調的幸福感尺度： Hitokoto & Uchida (2015)、幸福感の国際比較研究：子安ら(2012)

3　ウェルビーイング実現に向けた教室と学校の変革のイメージ（政府資料）

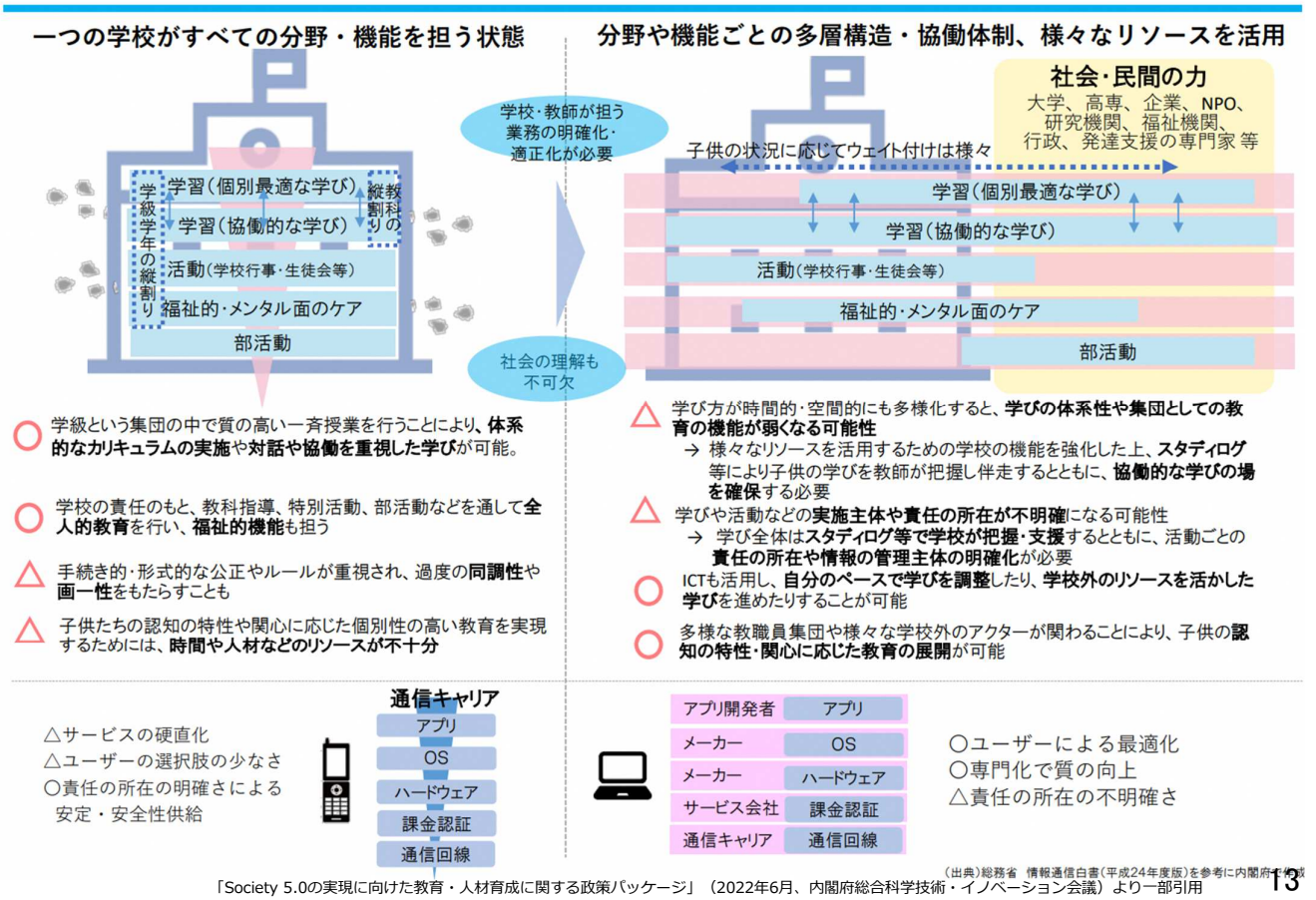
子供の特性を重視した学びの「時間」と「空間」の多様化（教室の変革のイメージ）

「そろえる」教育から「伸ばす」教育へ転換し、子供一人ひとりの多様な幸せ（well-being）を実現



「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」（2022年6月、内閣府総合科学技術・イノベーション会議）より一部引用

子供の特性を重視した学びの「時間」と「空間」の多様化（学校の変革のイメージ）



「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」（2022年6月、内閣府総合科学技術・イノベーション会議）より一部引用

13

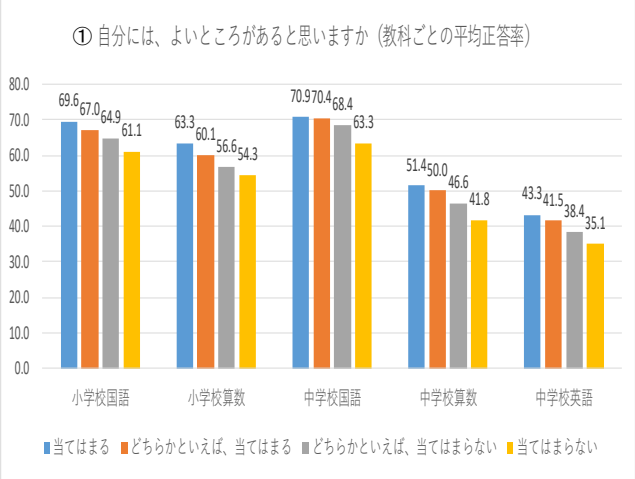
4　ウェルビーイングに関連する主観的指標との本県の学力の状況

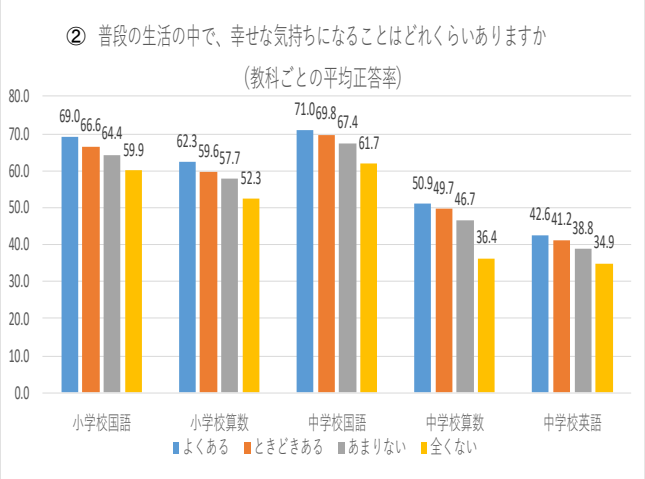
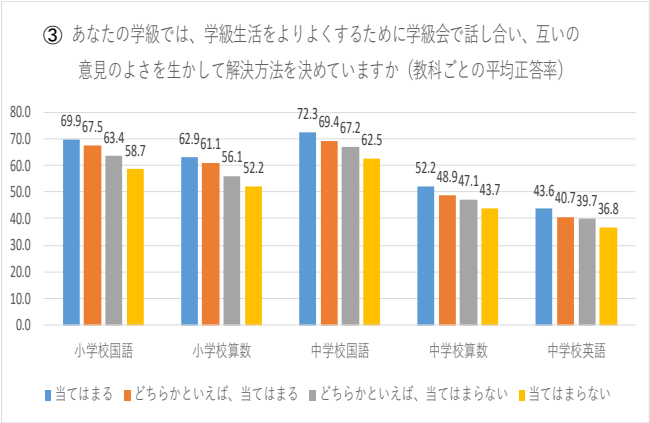
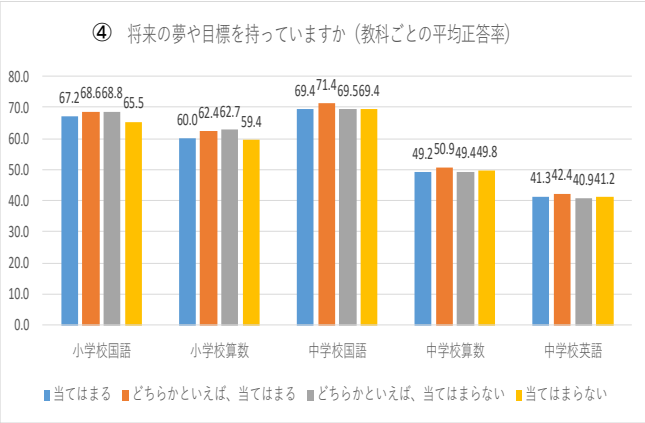
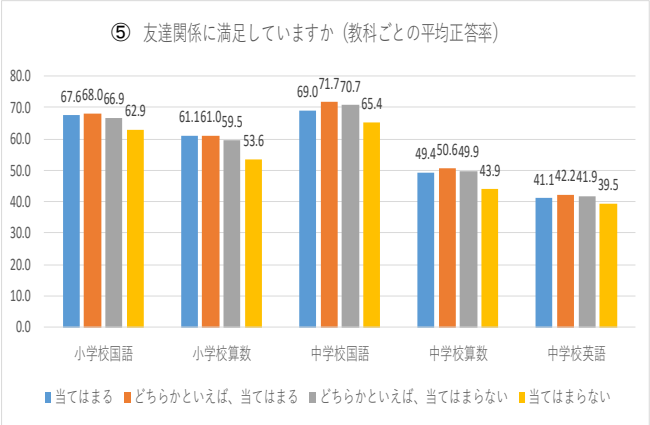
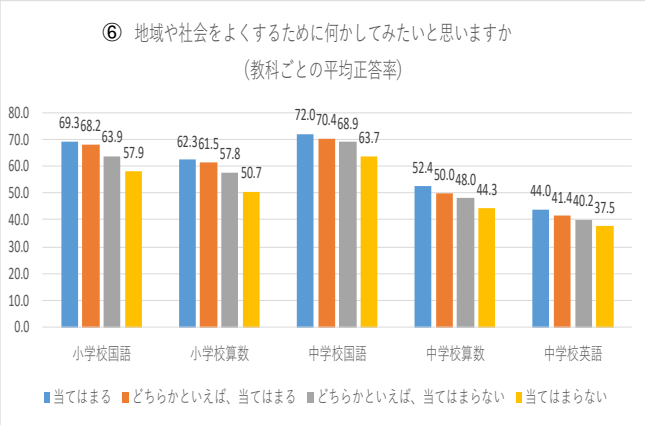
ウェルビーイングに関連する主観的指標と本県の学力の状況

● 令和５年度　全国学力・学習状況調査を基に、文科省で整理した「ウェルビーイングに係る主観的指標」（６頁）に係る教科ごとの平均点数を分析したもの【主なもの】

（関連する主観的指標）【6頁　「教育とウェルビーイング」に示す指標　・・　参考として以下の６つを取り上げ】

①自分にはよいところがあると思う	②普段の生活の中で、幸せな気持ちになる	③学級をよくするために互いの意見の良さを生かして解決方法を決める
④将来の夢や目標を持っている	⑤友人関係に満足している	⑥地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う
○授業の内容がよく分かる	○自分と違う意見について考えるのは楽しい	○先生は自分のいいところを認めてくれる
○勉強は好きと思う	○人が困っているときは進んで助けている	○困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる





ウェルビーイングに関連する主観的指標と本県の学力の状況